

高齢者の社会参加を促す工芸プログラムに関する試験・研究開発（第5報）

－福祉視点での工芸体験キット「組木キット」の開発－

Study on craft programs to encourage social participation of the elderly (5th report)
-Development of a "Kumiki" (Interlocking Wood) Craft Kit from a Welfare Perspective-

濱田 圭、赤田 朝子、工藤 洋司

本報では、フレイル予防を目的として開発した工芸キット「組木キット」について報告する。

キットには角棒と板の2種類のパーツがあり、角棒は120mm×20mm×20mm（長）、90mm×20mm×20mm（中）、60mm×20mm×20mm（短）長さ三種類、板は200mm×170mm×10mm（大）、200mm×140mm×10mm（中）、170mm×140mm×10mm（小）大きさ三種類があり、合計6種類の部品で構成される。

角棒には両端部付近に切り欠きがあり、板には切り欠き、穴、縦横の溝がある。

パーツの切り欠きや溝を組み合わせることで、スマホスタンドや鍋敷きなどいろいろな実用品を製作できる。また、パーツを手工具のノコギリで任意の長さに切断して使用することも可能である。

組み立て後は木工用ボンドで接着し、木ネジなどで固定する。また組み立て後は、生地そのまま使用するかオイル仕上げなどで表面の保護をする。

部品の製作を木工企業に依頼し、今後はこれを使用したワークショップを実施する予定である。

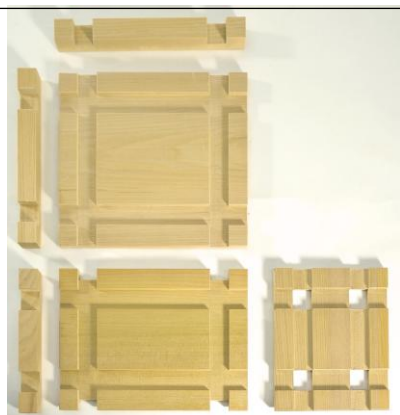


写真1 各部品



写真2 組立例(スマホスタンド)



写真3 組立例(鍋敷き)



写真4 組立例(本立て)



写真5 組立例(ドールチェア)

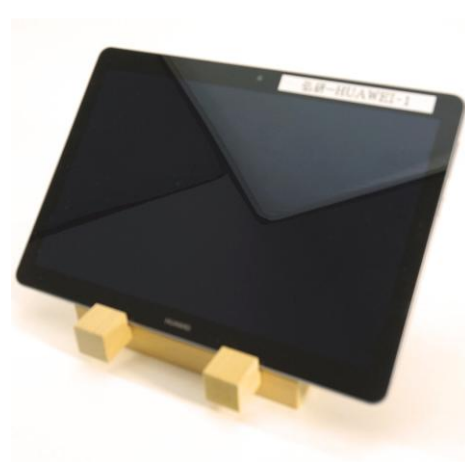


写真6 組立例(タブレットスタンド)